

## 令和2年度事業報告

### 報告にあたって

当協会は、八ヶ岳中央農業実践大学校において、農業の担い手及び農村の指導者の養成、農業技術・経営の研修、農林業体験学習等に関する事業を行っている。

大学校は、令和2年度（以下「2年度」という。）も、4月に入学生14名（専修科1年生13名、研究科生1名）を迎え入れ、3月には卒業生20名（専修科2年生）を送り出すことができた。卒業生は、2年間の実践教育によって農業を身体と頭で学んだ若者たちで、必ずや次代の農業や地域を担っていくであろう。

協会・大学校の経営については、新型コロナウイルス感染症の拡大、気象要因による野菜の減産等により事業収入が激減し、多額の資金借入れを余儀なくされた。この間、瑞穂農場の誘致による資金獲得を目指したが、地域住民の反対もあり実現しなかった。このため、年度末には純資産は激減して待ったなしの経営財務状況に至っている。

このため、収支改善を目指して東京事務所の大幅な縮小を含む経営改善計画を検討、作成し、これを2年度末に開催の理事会及び評議員会に提案し、承認を頂いた次第である。

以下、2年度の事業実施、管理運営等について報告する。

### 1 担い手の養成

#### （1）教育方針

次の方針による実践教育により、担い手の養成に努めた。

- オールラウンド学習（1年次前期）とチーム専攻学習（2年次）
- 地域現状分析・新規就農シミュレーション（1年次後期）
- プロジェクト研究（2年次）

## ○卒業論文

### (2) 学生数

2年度の学生数は、次の通り。

研究科生	1名（令和元年度 0名）
専修科2年生	20名（令和元年度 19名）
専修科1年生	13名（令和元年度 23名）

### (3) プロジェクト研究発表

関東ブロック大会と全国大会は、コロナ禍のためオンライン開催。関東ブロック大会には当校の全学生が参加し、4名が発表して意見発表の部で専修科2年金田千乃が優勝。全国大会では金田千乃が特別賞受賞。

### (4) 卒業生の進路

卒業生17名のうち、13名が農業関係に就職。自営2名、法人就職11名。地域は、長野県3名、長崎県2名、東京都、福井県、岐阜県、愛知県、山梨県、香川県、福島県、茨城県各1名。長野県3名は諏訪地域。

## 2 農林業体験学習・研修

実施したイベントと参加人数は、次の通りであり、指導員の確保及びその質の向上に努めたが、コロナ禍で大幅減、あるいは実績なしとなった。

- |                 |                                     |
|-----------------|-------------------------------------|
| (1) 農林体験学習      | 946名（令和元年度 10,537名）                 |
| (2) 一般体験学習      | 実績なし                                |
| (3) 各種研修・講習     |                                     |
| ①夏季短期講習会        | 4名、うち2名が専修科への入学<br>(令和元年度 34名、うち5名) |
| ②日本政策金融公庫新任職員研修 | 実績なし（令和元年度 19名）                     |
| ③諏訪地域教員新任者研修    | 35名（令和元年度 40名）                      |
| ④学生に対する農業機械実習   | 5名（令和元年度 6名）                        |

### 3 農場経営

大学校の農場は、農業の実践教育の場であるとともに、実践教育によって農畜産物を生産する場でもある。また、農業の六次化に対応し、牛乳乳製品等の加工も行っている。生産、加工については、予期せぬ事態の発生により減少した一年となった。

#### (1) 農産園芸

○野菜部門では、企業の資材提供や土壌水分機器の共同開発等を行い、学生の研究テーマとして活用。7月の長雨の後の8月の猛暑で基幹品目セルリとブロッコリーが大幅に減収。セルリにおいては、連作障害のフザリウム対策としてトルコデルマ菌等を使用した試験を行ったが、悪気象条件下で結果が伴わず、収量が8割減となった。ブロッコリーも、長雨による定植の遅れ、また、職員の体調不良も重なり収量は8割減となった。その中で、12月にブロッコリーでグローバル GAP 取得。

○花卉部門では、前任者から引き継いだ新しい職員達が奮闘し、下げ幅を最小限にとどめた。春と秋のパンジー、ビオラは、コロナ禍でイベントがほとんどなくなり、販売に苦戦したが、冬のシクラメンは巣ごもり需要でほぼ完売。

#### (2) 畜産

○酪農部門では、低能力牛の淘汰が終わり、飼育頭数が回復し、乳量も前年比106%となった。ジャージー牛利用の昼夜放牧、1回搾乳の超低コスト酪農を実施した。少雨により牧草収量は減ったが、デントコーン生産は、適期刈取により昨年度を大幅に上回った。

○養鶏部門では、高床鶏舎方式を9月に廃止し、新たにエンリッチド・ケージを導入し、アロウカナ飼育を開始した。国際的 AW 基準に沿った平飼・放飼鶏舎を構築し、ボリスブラウンによる有精卵生産を行った。農業生産法人黒富士農場との連携平飼・放飼養鶏を継続実施した。

○JRA 畜産振興事業では、酪農、養鶏、養豚を EU で開発された AW 評価法で周年評価した。

#### (3) 加工

○コロナ禍での乳製品需要の落ち込み、直売所での販売減少により、また、

人員不足の状況で、生産が減少した。機械の老朽化で生産が止まる状況も発生した。このため、加工所として、利益が出ない状況が続いている。

#### (4) 直売所、農場食堂

○コロナ禍の影響で来店減少が大きく、また、天候不順により大学校の野菜提供が減少したため販売額が減少。一方、新規商品の開発に努め、ピクルス・野菜ドレッシング・トマトジュースなどの販売は好調だったが、豚ハム・鶏肉ウインナーは認知度が低く苦戦。農場食堂ではソフトクリーム、カレー等を提供したが、コロナ禍で売り上げは前年度の1/3程度。

### 4 フォーラムの実施等

#### (1) ハヶ岳フォーラムの実施

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

#### (2) 農林技術アカデミーの実施

次のテーマで開催し、大学校の学生、教職員、外部からの受講者など約80名が参加。第9回は伊藤教授とオンラインでつないだ。

・第8回 2020年11月30日 農研機構 田部井豊氏

テーマ：ゲノム編集技術の農業食品分野への応用

・第9回 2021年2月9日 新潟食料農業大学 伊藤豊彰教授

テーマ：連作障害のない土づくり

### 5 経営財務

#### (1) 収支

収支（当期一般正味財産増減額）は△8,554万円で、前年度△5,338万円に対して、マイナス額が3,216万円増加した。

経常収益は4億788万円で、前年度4億7,099万円に対して、6,311万円減少した。減少額が多いのは、研修（体験学習）△2,694万円、学生数減少に伴う授業料等△1,549万円、作物園芸△256万円、花卉△310万円。

加工流通部門収益（製造）△282万円、直売所△1,486万円。

経常費用は、4億9,342万円で、前年度5億2,437万円に対して、3,095万円減少した。減少額が多いのは、種苗費△785万円、原材料費△1,240万円、修繕費△525万円。

## （2）正味財産

本年度末の正味財産は7,079万円で、前年度末1億7,173万円に対して、1億94万円減少した。短期借入金残高は2億2700万円で、前年度末に対して、9,900万円増加した。

## 6 理事会・評議員会等

### （1）理事会の開催

- ・ 第1回理事会 令和2年4月1日（水）（決議があったと見なされた日）  
「理事の選任」について理事全員の書面による同意が得られ承認。
- ・ 第2回理事会 令和2年6月5日（金） 於：日本農業研究所ビル会議室  
「令和元年度事業報告及び決算（案）」、「令和2年度資金調達の変更及びこれに伴う抵当権設定」、「令和2年度第1回評議員会の招集」について審議。  
全員一致をもって原案通り承認。
- ・ 第3回理事会 令和2年6月25日（木）（決議があったと見なされた日）  
「役付役員の選定」について理事全員の書面による同意が得られ承認
- ・ 第4回理事会 令和2年8月26日（水）（決議があったと見なされた日）  
「定款変更案及び事務所移転先・時期」、「令和2年度第2回評議委員会」について理事全員の書面による同意が得られ承認。
- ・ 第5回理事会 令和2年11月26日（木） 於：日本農業研究所ビル会議室  
「新型コロナウイルス感染症拡大による資金調達の再変更」について審議。  
全員一致を持って原案通り承認。
- ・ 第6回理事会 令和3年3月4日（木） 於：日本農業研究所ビル会議室  
「基本財産の一部処分」の件、「令和3年度事業計画・収支予算」、「理事の選

任」について審議。全員一致をもって原案通り承認。

## (2) 評議員会の開催

- ・ 第1回評議員会 令和2年6月25日(木) 於：日本農業研究所ビル会議室  
「令和元年度事業報告及び決算(案)」、「令和2年度資金調達の変更及びこれに伴う抵当権設定」について審議。全員一致をもって原案通り承認。
- ・ 第2回評議員会 令和2年9月15日(火)(決議があったと見なされた日)  
「定款変更案及び事務所移転先・時期」について評議員全員の書面による同意が得られ承認。
- ・ 第3回評議員会 令和2年12月11日(金) 於：日本農業研究所ビル会議室  
「新型コロナウイルス感染症拡大による資金調達の再変更」について審議。  
全員一致を持って原案通り承認。
- ・ 第4回評議員会 令和3年3月22日(月) 於：日本農業研究所ビル会議室  
「基本財産の一部処分の件」、「令和3年度事業計画・収支予算」、「理事の選任」について審議。全員一致をもって原案通り承認。

## (3) 常任理事会の開催

業務運営に関する経常的な事項を処理するため、令和2年6月15日(月)、8月11日(火)、10月12日(月)、12月14日(月)、令和3年2月8日(月)の5回、八ヶ岳中央農業実践大学校において開催。

## (4) 経営管理委員会の開催

大学校の経営及び管理上の諸問題を検討、評価し、学校運営に関して各般の改善を図るため、令和2年5月15日(金)、7月13日(月)、9月18日(金)、11月13日(金)、令和3年1月18日(月)の5回、八ヶ岳中央農業実践大学校において開催。

## (5) その他の委員会の開催

食育企画委員会は新型コロナウイルス感染拡大の影響により未開催。

以上